

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972700330		
法人名	社会福祉法人二宮会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	栃木県真岡市石島463		
自己評価作成日	令和2年9月22日	評価結果市町村受理日	令和2年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop20">www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop20</a>
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和2年10月8日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・田園風景に囲まれ静かな環境の中(散歩・農業)を通じ楽しみ・生きがいの持てる生活を送っている。一人ひとりの生活のリズムに合わせ要望、希望に添って利用者全体の生活が送れる様心掛けています。  
併設施設の連携により行事なども充実している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・日頃より、事業所と家族のコミュニケーションが図られており、協力体制が構築されている。行事や家族会に参加してもらい、意見交換が行われている。感染症対策のため対面での面会を控えているが、リモートでの面会が行えるよう調整中である。  
・運営推進会議や医療連携会議「一期一会の会」にて、地域や行政、有識者等との意見交換を行い、地域連携が図られている。  
・職員は利用者との対話を重視し、対話する時間を持つよう意識して支援している。意思疎通の難しい方には、表情や仕草などから思いを把握し、気になる発言等がある際は職員間で共有している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームさくら独自の理念をケア室に掲示し、共有している。職員は意識し実践につなげている。	開所時より、地域と家族と共に利用者本位の暮らしを支えていくことを目的とした理念を掲げている。日々の申し送り時や職員会議に、理念を唱和し支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	例年は、地元の幼稚園や、中学校への訪問子供神輿の慰問など地域との交流を行っているが、今年は、感染防止対策として活動を休止している。	今年は感染症対策のため地域との交流を自粛しているが、例年、法人全体の三大行事(運動会、納涼祭、クリスマス)には、利用者や家族、地域住民の交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流のなかで、利用者の実態を説明したり、意見を聞き取りアドバイス等をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催。利用者の状況や活動の報告をすると共に話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に生かしている。	家族や自治会長、民生委員、市担当職員、事業所職員等が参加し事業所からの報告や参加者と意見交換が行われている。行政や事業所、地域を対象とした連絡網を作成し、災害発生時の連携体制が整っている。今年は感染症対策のため各委員に書面を郵送し、報告が中心となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡や市役所に出向いて現状報告し、協力関係を築ける様努めている。	医療連携会議「一期一会の会」へ月に1回参加し、行政、有識者との意見交換が図られている。また、認知症サポーター養成講座や認知症カフェの開催、福祉関係の研修について連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1度の部署会議において勉強会や話し合いを行い身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 身体拘束防止についての内容をケア室に掲示し、職員の意識の向上に努めている。	月1回の職員会議で、身体拘束をしないケアについての話し合いや勉強会を行っている。身体拘束の具体的な行為を書面にして、職員が目にすることができるよう事務所に掲示し、身体拘束に対しての共有が図られる様になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1度の部署会議に合わせて勉強会や話し合いを行い、虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1度の部署会議に合わせて勉強会を行い、制度について学び、施設内にパンフレット(成年後見制度)を掲示し、必要時に活用出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族などの不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。(自立支援に関する事項・家族の協力事項)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族会議にて、意見や要望を頂くようにしている。運営推進会議・職員会議にて報告し、それらの意見を元に行事・運営などに反映している。	日頃より、事業所と家族のコミュニケーションが図られており、協力体制が構築されている。行事や家族会に参加してもらい、意見交換が行われている。感染症対策のため、対面での面会を控えているが、リモートでの面会が行えるように調整中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、朝・夕のミーティング等において、日常的に現場の意見を聞き入れ、話し合いをし、実践している。	日常的に職員間で自由に意見が言える、風通しの良い職場環境である。月1回の職員会議では、個別ケアや業務内容の検討を行い、業務改善が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の職種に応じて、研修会・勉強会に積極的に参加し勉強していくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	各事業所において高齢化・重度化に伴い交流が難しくなってきた為、平成30年4月よりグループホーム連絡会議が活動休止となる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が抱える不安や要望などに耳を傾け、気持ちを受け止め、会話の中に笑顔の見える安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	状況を伺い、家族の不安などの気持ちを受け入れ、関係づくりに努めている。 又、利用者の様子をこまめに報告し、施設での状況を伝え、安心して利用して頂ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をよく聞き、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力・個性を理解し、ともに協力し支えあい過ごしていける関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を取り合い、体調や生活の様子などを共有し、支えあえる関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で外出支援や、併設施設の知人に会いに行かれる。家族や友人・知人との交流の継続支援に努めている。	家族や友人等の面会があり、来所時は自室でゆったりと過ごされている。家族と共に通院や外食、床屋、自宅への外出も行われている。利用者の要望に沿った支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握に努め、行事・レクリエーションなどの活動で関わりを多く持ち孤立せず支え合える関係づくりに務める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先の施設や病院等への情報提供や、移動後の利用者・家族の混乱や不安などの気持ちに寄り添い、連絡を密にし、支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の意向・希望に添った支援に努めている。また、あまり言葉にしない利用者には日々の会話や仕草で感情の把握に努めている。	職員は利用者との対話を重視し、対話する時間を持つよう意識して支援している。意思疎通の難しい方は、表情や仕草などから思いを把握し、気になる発言等がある際は、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時や契約時・家族の面会時に生活履歴や暮らし方・サービス利用の経過などを聞き取り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの中で、会話・表情・行動から心身の状態や残存機能を見極め、日誌などに記録し全職員が共有できるように務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のモニタリングや3ヶ月に1回又は必要に応じてケース会議を実施。現状課題を話し合い、本人・家族・関係者等の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は利用者や家族、職員で話し合い計画作成担当者が作成している。毎月モニタリングや3か月に1回カンファレンスが行われている。利用者全員の介護計画を全職員が把握し支援の統一を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・ケース記録・介護経過記録を記入し、状況の変化に応じ話し合い、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設があり利用者や家族の状況・要望に応じ相談・協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店・施設・医療機関などへ外出やボランティアの受け入れ、地域との交流に努め、豊かな生活を楽しめるようにしている。現在、感染防止対策として外出活動を控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族などの希望を大切に、協力病院や、専門の医療機関と協力し、適切な医療を受けられるように協力体制を整えている。	全利用者が協力医での往診受診となっている。また、法人内の特別養護老人ホームの看護師との連携が図られている。他科受診は家族と一緒に受診しているが、家族が遠方で対応できない場合や突発的な場合は事業所職員が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に相談し、助言又は指示を得て、適切な受診や処置を受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師や家族・ケアマネとの連携を取り、情報を共有できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人・家族等と重度化や終末期のあり方について話し合いを持ち、要望の確認と施設で出来る事を説明し、理解が得られるよう努めている。常に家族に状況を報告し、協力医療機関と連携し支援に取り組んでいる。	利用契約時に重度化した時の本人・家族の意向について話し合いをし、事業所のできる対応について説明している。また、事業所内では、職員に対して看取りや重度化に向けた方針、緊急時の対応についての勉強会を行っている。	利用者の高齢化に伴い、重度化・急変時の対応について、マニュアルや設備の整備を図るよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修やミーティングなどで十分な対応が出来るよう務めている。緊急時の対応マニュアルを、ケア室に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防本部・二宮分署との協力の元、定期的避難訓練や消防訓練を行っている。	年に2回消防本部・二宮分署協力の下で避難訓練を実施している。事業所は緊急避難施設の指定を受け地域の福祉避難所となっている。法人内で災害時の備蓄も完備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての言葉かけや対応を心がけ自尊心を傷つけない支援をさりげなくしている。個別対応や環境にも配慮しプライバシーが損ねないよう務めている。	利用者を呼ぶ際は「さん」づけで呼んでいる。ゆっくりと聞き取りやすい、敬語での会話を心掛けている。利用者の居室に入る際は本人の了承を得てから入室する等、一人ひとりを尊重した支援を行っている。	トイレはカーテンで仕切られており、音や匂いが共用空間に漏れることがある。トイレでのプライバシーに配慮した対策を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を気軽に表したり、自己決定が出来るような信頼関係作りに努め、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重し、日々希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに応じた服装・髪型出来るよう柔軟に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設活動の一環として、料理活動を行っています。今年は、感染症防止対策の為活動を控えているが、施設の畑で例年通り野菜の栽培は行っている。	食事の副菜は外部委託を利用し、ご飯はユニットで炊いたものを提供している。事業所の畑から採取した野菜を使用した料理の提供やお好み焼き、鍋などが行われていたが、現在は自肅している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事量や形態を工夫している。献立は管理栄養士(委託業者)が作成。一社に食事をする事で摂取・水分量や身体の状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアの声かけや見守り、必要に応じて介助等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を活用し、1人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレ誘導を基本とした排泄介助を実践している。その積み重ねにより、オムツを使用している利用者はなくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の生活習慣の見極めや便秘の原因を探り、食事量・水分量・運動等で予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて個々にそった入浴支援をしている。また菖蒲湯・入浴剤などにより季節感を楽しめるように配慮している。	利用者は毎日入浴することができ、最低でも週に2日は入浴している。ゆっくりと安心して入浴できる時間を設け、季節に応じた変わり湯の提供等工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な運動などに心がけ、生活のリズムを整えたり、室内環境にも配慮している。個々の睡眠パターンの把握にも努め支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋・申し送りにて確認し服薬支援に努めている状態の変化に対しては医療機関と連携し、治療や服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活経験や力を活かした、家事仕事・園芸活動・散歩の他、嗜好品や楽しみ等で気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出されたり、地元の施設や近辺を散歩し季節の様子を楽しまれる。今年は、感染症対策として、マスク着用の上、施設周辺の散歩だけを行っています。	感染症対策のため外出の自粛をしているが、青空食堂や畑作業や散歩等できる事に取り組んでいる。家族と外出や外食をしたり、散歩や買物支援、外食の他に、花見や紅葉を見に外出していたが、現在は自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や能力に応じ、個人所有や預かり等があり、いつでも自由に使ったり所持したりできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由であり、本人の希望に添い支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を清潔に保ち、季節に応じた花や飾り物を配置。また農園で採れた作物を飾ったり季節感を取り入れ、居心地よく過ごせる様工夫している。	ホールには、季節感を感じられる創作品が飾られている。利用者の希望により全員がテレビを見ることができるよう座席をL字型に配置している。廊下には花や観葉植物等配置されている。玄関にはベンチを設置して寛げるようにしている。	利用者一人ひとりの要望に応じた、居心地の良い生活空間となるよう、ハード面での環境整備が図られる事を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所に椅子やソファ・テーブルを用意し一人一人が思い思いの場所で過ごせる様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族様との相談で使い慣れた家具や所持品を持ち込んで頂いている。	全室畳が敷かれて、介護用ベッドやクローゼット、エアコン、洗面所が完備されている。家具やテレビ、写真等、本人が使い慣れた物が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目につきやすい場所へ、カレンダー・時計を設置。移動しやすいように空間への配慮・各所に手すりを設置。トイレ・居室の場所も分りやすい様に工夫している。		